



公益社団法人

日本整形外科学会

The Japanese Orthopaedic Association

資料 1 - 5

日本整形外科学会

整形外科領域専門研修プログラム

専門医・専攻医管理委員会
大川淳・原田繁

今後の整形外科診療の方向性

高齢者の診療ニーズに応える診療はさらに一般化

整形外科診療 = 手術(1) + 保存治療(9)



従来の整形外科専門研修

初期臨床研修 2年

- 整形外科選択 2~8か月

3年

整形外科専門研修 4年

- 医学部附属病院 1年
(レジデント、医員)

抄読会・カンファ参加

- 関連病院ローテート 3年

3年間で500例執刀を目標

7年

日本整形外科学会 専門医取得

サブスペシャリティ研修

- 脊椎／膝／股／手／腫瘍

専門手術と
臨床研究

12年

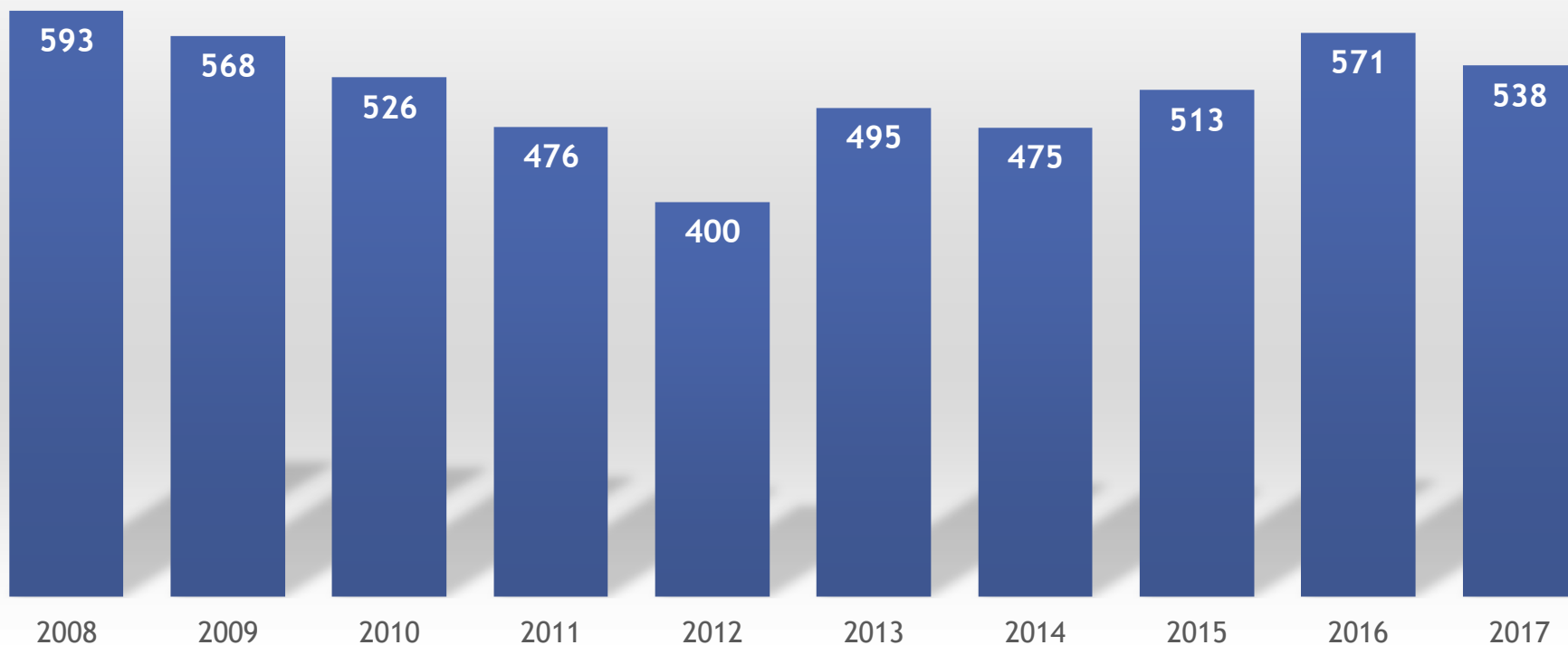
サブスペシャリティ専門医取得

大学院・留学

専門医資格取得者数の推移

専門医取得者数

■ 専門医取得者数



2017整形外科研修プログラム整備指針 1

▶ 理念

- ▶ 医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とする。

▶ 2017年は、暫定プログラムと従来型の並列

▶ 暫定プログラム

- ▶ 基幹研修施設が連携施設とともに研修プログラム群を形成し、ローテーション研修を行う
 - ▶ 基幹施設は、専門医資格を1回以上更新している指導医が5名以上常勤
 - ▶ 特定機能病院あるいは大学病院のⅠ型と、一般病院のⅡ型がある
 - ▶ 連携施設は、指導医が1名以上、年間手術件数100件以上
- ▶ 特定機能病院（大学病院）を6か月以上、地域医療研修を3か月以上
 - ▶ 指導医不在施設でも3か月間は地域医療研修可能（関連施設）

▶ 管理

- ▶ webシステム

2017整形外科研修プログラム整備指針2

▶ 暫定プログラム修了要件

▶ 研修期間単位

- ▶ 6単位ずつ（脊椎、上肢手、下肢、外傷）
- ▶ 3単位ずつ（スポーツ、リウマチ、リハビリ、地域）
- ▶ 2単位ずつ（腫瘍、小児）

＋選択5単位

▶ 手術件数

- ▶ 執刀80例、助手80例以上の計160例以上

▶ 疾患単位：A、B、C分類諸疾患に関して経験症例数を満たす

▶ 従来型研修（⇒2018カリキュラム制）

▶ 複数の認定研修施設

▶ 4年間48か月の研修

▶ 経験手術件数、疾患単位についてはプログラム制と同内容

プログラムの差異

暫定プログラム	従来型研修
<ul style="list-style-type: none">学会員としてweb管理システムに登録	<ul style="list-style-type: none">専門医申請時に4年間以上の日整会正会員
<ul style="list-style-type: none">45か月研修修了後専門医試験	<ul style="list-style-type: none">48か月研修修了後専門医試験
<ul style="list-style-type: none">大学病院等6か月、地域医療3か月を必須とするローテーション研修	<ul style="list-style-type: none">認定研修施設2か所以上で3年間以上
<ul style="list-style-type: none">指導医5名以上の基幹施設と1名以上の連携施設による研修施設群	<ul style="list-style-type: none">指導医1名以上の日整会認定研修施設
<ul style="list-style-type: none">教育研修講演30単位	<ul style="list-style-type: none">教育研修講演30単位
<ul style="list-style-type: none">1回以上の学術集会発表、1編以上の論文を作成	<ul style="list-style-type: none">1回以上の学術集会発表、1編以上の論文を作成
<ul style="list-style-type: none">webによる研修歴管理	<ul style="list-style-type: none">整形外科研修記録による研修歴管理



Web管理システム

▶ 管理項目

- ▶ 研修施設
- ▶ 専攻医の履歴
- ▶ 研修内容・進捗
- ▶ 研修評価・履歴
- ▶ 教育講演受講
- ▶ 学会参加
- ▶ 論文執筆
- ▶ 症例経験（手術件数）

プログラム 統括責任者
[トップメニューへ]

お知らせ **0**

お知らせ配信

施設・指導医等の管理

施設定期報告

在籍者検索

分野管理

研修予定の管理

転出・転入

症例の確認

年次評価

研修状況一覧

専攻医代理入力

指導医代理入力

専攻医の採用

専攻医による指導医評価閲覧

委員会議事録

サイトビジット情報

自己申告

資料ダウンロード

オンラインマニュアル

+ 指導医
[トップメニューへ]

お知らせ **0**

評価担当の専攻医一覧

所属履歴

▶ プログラム統括責任者

■ 研修プログラム情報

基幹施設	東京医科歯科大学医学部附属病院	プログラム統括責任者	大川 淳
住所	〒113-8519 東京都文京区湯島一丁目5番45号		

■ お知らせ

未読のお知らせはありません

[全て表示する (全4件)]

■ カリキュラム進捗統計

専攻医の自己評価数や指導医の評価数から各種の表示方法にてカリキュラムの進捗に遅れが無いかが確認が行えます。

研修開始年

表示内容

表示順は、合格数が少ない順となっております。

カリキュラム項目数の進捗目安

1年目	2年目	3年目	4年目	総項目数
50項目	100項目	150項目	201項目	201項目

▶ 該当専攻医数 : 10名

No.	専攻医名	種別	施設名	担当指導医	合格数/ カリキュラム項目数
1	谷本 貴大	連携	医療法人 新青会 川口工業総合病院	狭内 隆司	0/201
2	池田 達宣	連携	埼玉県立がんセンター	下地 尚	0/201
3	楠 祐輔	連携	国家公務員共済組合連合会 九段坂病院	進藤 重雄	0/201
4	大塚 彩子	連携	公益財団法人 がん研究会 有明病院	阿江 啓介	0/201
5	黒澤 紀雄	連携	財団法人 日産厚生会 玉川病院	奥田 直樹	0/201

専攻医名：山下

研修プログラム	東京医科歯科大学医学部附属病院		
基幹施設	東京医科歯科大学医学部附属病院	プログラム統括責任者	大川 淳
現在の研修施設	東京医科歯科大学医学部附属病院	研修予定期間	2017年04月01日 ~ 2021年03月31日
その他特記事項			

研修予定スケジュール

1年目	2年目	3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> ● 基幹 東京医科歯科大学医学部附属病院 2017年04月01日～2017年09月30日 連携 地域 国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 2017年10月01日～2018年03月31日 			

カリキュラム [\[カリキュラムの詳細を見る\]](#)

評価の進捗		年次評価
1年次	○ ○	○
2年次		○
3年次		○
4年次		○

領域単位

0/45

研修会単位

0/30

学会発表

0

論文

0

症例

経験・手術

2017応募状況

- ▶ 定員設定 5年実績値を基準として、都市部1.2倍+地域部2倍
- ▶ 応募者 572名
 - ▶ 暫定プログラム（103） 557名
 - ▶ 従来型研修施設（9） 15名

	I型	II型	従来型	計
プログラム数	80	23	(9)	103(9)
募集定員	879	61	(21)	940(21)
応募人数	541	16	(15)	557(15)

- ▶ 都市部分析
 - ▶ 東京、神奈川、愛知、大阪、福岡（専門医機構定義）

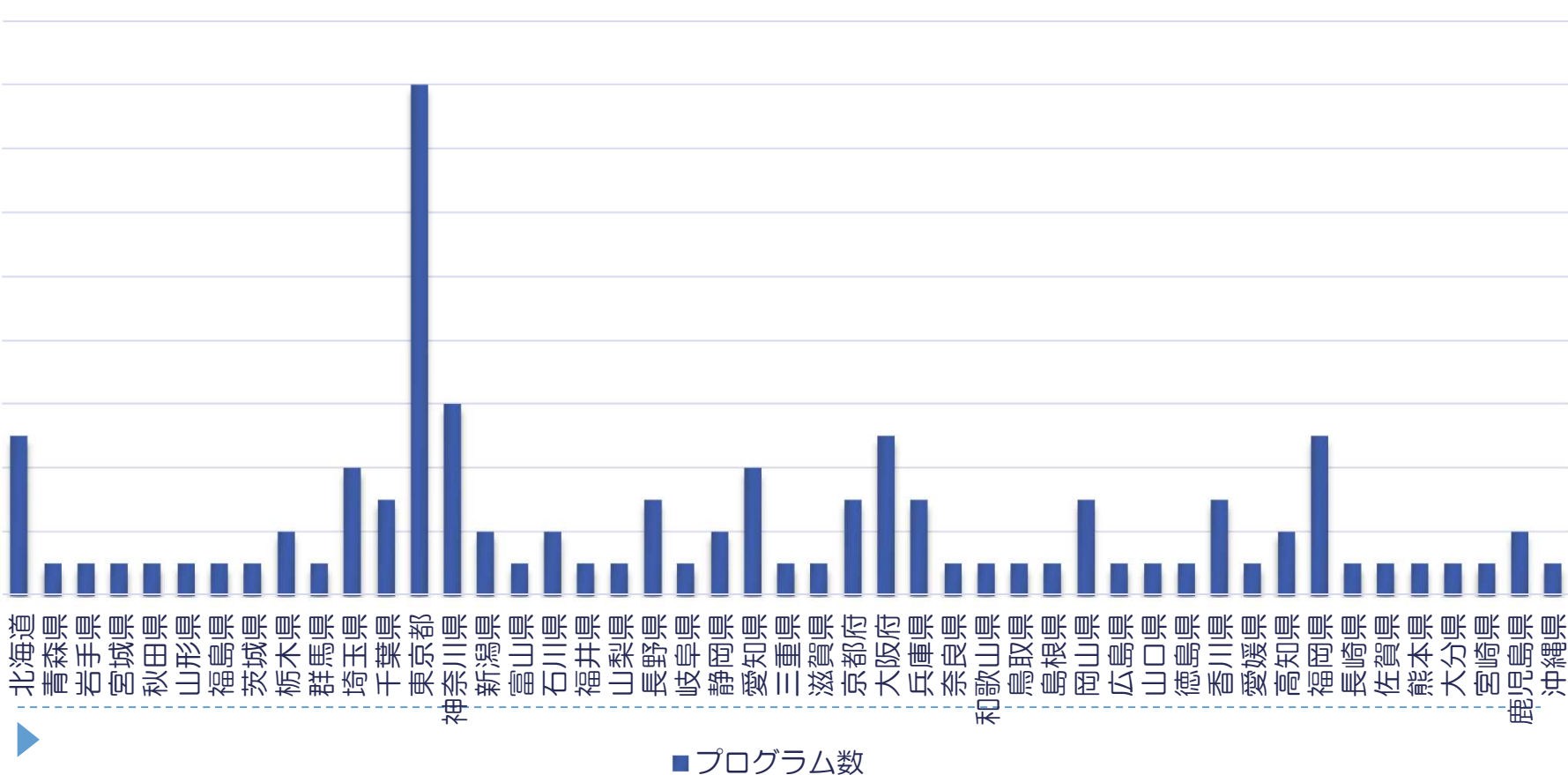
都市部集中は発生しなかった。

	2011~2015	2017	増減
都市部	269	278	+9 (3.3%)
地域部	270	294	+24 (8.9%)
計	539	572	+33 (6.1%)
全国医学部生	7625	8486	+861 (11.3%)

2017暫定プログラム

103のうち28県が単一プログラム

プログラム数



日整会としての対策案1

整形外科整備基準の改定

- ▶ 都市部の定義を、東京・神奈川・愛知・大阪・福岡に変更
 - ▶ 都市部の定員は、各プログラムごとの過去5年間の平均以下
 - ▶ ただし、募集定員の総和が都府県ごとの過去平均を下回るときには、実績値が少ないプログラムからの6人まで増員を検討
 - ▶ 地域部の定員についてはとくに上限なし（最低6人、目安は1.5倍程度）
- ▶ 大学病院以外の基幹病院を増やす
 - ▶ 基幹病院が大学病院しかない県に、原則として市中病院の基幹病院を作る（整備基準の改定を予定）
 - ▶ ※佐賀県、岩手県以外は全県複数の基幹病院を設置の見込み
 - ▶ 基幹施設の施設要件が満たせない場合は、個別に判断する

（例）佐賀県

①基幹施設数	①の連携施設数	指導医数	専門医数	専攻医数	佐賀県内の連携施設数（重複除く）	認定研修施設数
1	16	9	49	12	18	20

研修カリキュラム制の明確化

▶ 対象

- ▶ 自治医科大学、防衛医科大学、産業医科大学の卒業生、地域枠卒業生
- ▶ 出産、育児、留学による長期中断
- ▶ 他基本領域の専門医を取得してから整形外科専門研修を開始する者（ダブルボード）
- ▶ 社会人大学院

▶ 研修期間

- ▶ 4年以上、うち3年間は、認定された複数の基幹・連携施設における研修が望ましい
- ▶ 研修プログラム制からの移行も柔軟に可能

▶ 研修修了要件

- ▶ プログラム制と同じ内容の研修実績
 - ▶ 教育研修講演30単位
 - ▶ 骨・軟部腫瘍特別研修会
 - ▶ 1回以上の学会発表か筆頭著者として1編以上の論文
-

